

10/26  
10/25  
10/26

「安全保障関連法に反対する学者の会」と学生グループ「SEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動、シールズ）」が二十五日、東京都千代田区の法政大でシンポジウムを開いた。出席者から「安保法は廃止すべきだ」などの意見が相

### 都内でシンポ

次いだ。

「岐路に立つ日本の立憲主義・民主主義・平和主義」と題し、当初は立教大で開催する予定だったが立教大が会場の使用申請を受け入れなかったため、法政大に変更。主催者発表で約千三百人が集まった。

## 学者も 安保法と闘う シールズも

六月の衆院憲法審査会で安保法案を違憲と指摘した長谷部恭男早稲田大教授は「安保法は従来の政府見解との整合性が無い。憲法九条に違反することも明らかだ。本来はこれで結論は出ている」と述べた。シールズの中心メンバー奥田愛基さん(三三)は「特定秘密保護法の時からずっとおかしいと思って活動してきた。大事なのは自分が今できることをやることだ」と訴えた。同じくシールズの千葉泰真さん(二四)は「安保法が成立する様子に政治とは何か、誰のために行われるのか、疑問に思ったのは僕だけではないはずだ。安保法は認められない」と話した。



安保法に反対する「学者の会」と「シールズ」が開いたシンポジウム  
25日、東京都千代田区の法政大で